

イエ型集団としての短歌・俳句結社の研究

大野道夫 (大正大学)

はじめに

短歌・俳句は伝統のある短詩型文学として、学校教育や社会教育の場で幅広く学習されている。そして選歌・選句、歌会・句会等で短歌・俳句に関する学習をおこなう重要な集団として結社をあげることができる。短歌・俳句の結社 (association) は明治の近代化とともに生まれ、短歌の「心の花」、俳句の「ホトトギス」などは100年以上の歴史がある。

本報告では短歌・俳句結社をイエ型集団の視点からとらえ、昨年おこなった調査をもとに、短歌結社の10年間の変化、短歌結社と俳句結社の比較などをおこなっていくことにしたい。

1 短歌結社の10年間の変化——超血縁性が弱まる

(1) イエ型集団としての短歌・俳句結社

村上泰亮は集団の類型として、後継者の連続性が重視される系譜性、血縁以外の者も集団に入れ疑似血縁的な関係を持つ超血縁性、そして機能的階統制ヒエラルキーを特徴とするイエ型集団を示している。そして茶、生け花、短歌、俳句などの伝統芸能はこのイエ型集団と結びついている。

(2) イエ型集団としての短歌結社の変化

それでは10年前におこなった調査と比較し、イエ型集団としての短歌結社の変化を分析していくことにしたい。

①系譜性

短歌・俳句の結社は、「写生」などの「理念」と、正岡子規などの有力な「人」により

成立した。そしてこの「理念」と「人」の系譜性については、一代限りとする結社一代論、系譜が継続するという結社継続論が存在してきた。

この系譜性の有無の変化を見ると、「理念」(95年・57.9% 05年・60.1%)、「人」(95年・51.7% 05年・55.1%)ともに顕著な変化はみられなかった。

②超血縁性

まず結社内の超血縁性をみると、「結社の行事や出版記念会などでの協力」、「結婚式への参列などプライベートなつきあい」とともに顕著な変化はみられなかった。

次に結社外との関係で超血縁性をみると、(対外的な活動として)「結社内で会員どうしが雑誌を出したりすること」、「2つ以上の結社に加入すること」については変化がなかったが、「他の結社の会員と雑誌を出したりすること」については「かまわない」が増加していた。

このように特に結社外との関係で、超血縁性が弱まる傾向がみられた。

③機能的階統制ヒエラルキー

機能的階統制ヒエラルキーにおいては大きな変化はみられなかったが、同人(選をへずに結社誌に作品が掲載される人)は増加する傾向がみられた。(95年・45.8% < 05年・55.1%)

このようにこの10年間で短歌結社は、特に結社外との関係の超血縁性においてイエ型集団としての特徴がやや弱まる傾向がみられた。

2 短歌結社と俳句結社の比較——イエ型集団の特徴が強い俳句結社

(1) 結社数

次に短歌結社と俳句結社の比較をおこなう。

まず結社数については、短歌結社は「短歌研究」、「短歌」、俳句結社は「俳句研究」、「俳句」、「俳壇」により調査対象の特定化をおこなった。そして次に、結社ではない、結社を解散した等の返信が来たものを引き、最終的に短歌結社は646結社、俳句結社は868結社とカウントした。なお会員数も俳句結社の方が多く、結社誌の発刊形態も、短歌が季刊、不定期刊が多いのに対し、俳句は月刊が多かった。

(2) 系譜性

次にイエ型集団としての特徴をみると、系譜性の有無は、「理念」(短歌・60.1%<俳句・72.0%)、「人」(短歌・55.1%<俳句・72.0%)ともに俳句結社の方が多かった。

(3) 超血縁性

超血縁性をみると、結社内の超血縁性は、「結社の行事や出版記念会などでの協力」は差がなかったが、「結婚式への参列などプライベートなつきあい」は俳句結社に多くみられた。

結社外との関係での超血縁性は、「結社内で会員どうしが雑誌を出したりすること」、「他の結社の会員と雑誌を出したりすること」、「2つ以上の結社に加入すること」ともに顕著な差はなかった。

このように特に結社内の関係で、俳句結社の方が超血縁性が強い傾向がみられた。

(4) 機能的階統制^{ヒエラルキー}

機能的階統制^{ヒエラルキー}においては、俳句結社に主宰(短歌・33.1%<俳句69.9%)、同人(短歌・55.1%<俳句・69.9%)が多く、短歌結社

に代表(短歌・52.7%>俳句33.1%)、編集委員(結社誌の編集にたずさわる人 短歌・67.9%>俳句・58.1%)が多かった。

このように特に俳句結社に主宰が多く機能的階統制^{ヒエラルキー}が強い、という傾向がみられた。

(5) まとめ

このように調査において、短歌結社より俳句結社の方が結社数が多く、イエ型集団としての特徴が強い傾向がみられた。最後にこの理由を考察しておこう。

俳句(五七五)は短歌(五七五七七)よりも短い詩型である。この世界最短の詩とも言われる特徴により多くの人が興味を持つ、と考えられる。(たとえば海外でも、俳句(HAIKU)の活動の方が盛んである。)また短いために私生活が出にくくつくりやすい(と思われる。)

上記の理由により短歌人口よりも俳句人口の方が多く、結社数も多いと考えられる。そして俳句の方がある程度人口があるため経済状態はよい(たとえば結社から収入を得ている者は俳句の方が多い)がどうしても「保守的」となり、イエ型集団としての特徴が強い、と考えられるのである。

注

(1) 05年11-12月、短歌・俳句の1582結社(有効回答率 40.3%)に郵送法で調査。

(2) 村上・公文・佐藤『文明としてのイエ社会』中央公論社、1979年。

(3) 詳しくは以下の文献を参照のこと。

拙著『短歌の社会学』はる書房、1999年

(4) 95年6-7月、短歌の699結社(有効回答率45.9%)に郵送法で調査。